

輝人

かがやきびと

このコーナーでは仕事やプライベートで
“輝く人”を紹介します。
第53回は、交野薬局で調剤事務として
活躍する田中 葉月さんを
クローズアップします！



患者様のことを思い、行動する。
「ありがとう」の言葉と笑顔が、
私のパワーの源。

田中さんの
好きな言葉

「一生懸命」

真面目で心配性な性格なので、事前の準備を入念にやるタイプ。
任せてくださった方がっかりさせたくないし、自分自身も後悔したくない。
できることはすべてやってから臨みます！

“私がやりたかったのは、これだ！”
患者様が気づかせてくれた
目指すべき姿

美容に関わる仕事からの転職。それまで調剤薬局に足を踏み入れたこともなく、調剤事務の仕事については予備知識ゼロ。処方せんって何？患者様から代金をいただくの？というレベルからのスタートだった。「入社から数日経ったころ、調剤室で作業をしていると受付で患者様が怒っている声が聞こえてきて。他人事で眺めていたら、どうやら私の方を指さしていらっしゃるんです。怒りの理由は“あの子にバカにされた”というもの。私が微笑みながら患者様を見ていたことに対して、そのような印象を与えてしまっていたようです。」アルバイトも含めて接客業の経験があり、患者様対応については、得意な分野だという自負もあった中でのクレーム。「患者様が帰られた後、薬局長の城向さんから『田中さんが今まで経験してきた職場は、お客様が何かを買ったり食べたりする目的を持って、行きたくて行く場所だったと思う。でも調剤薬局は、みなさんそれぞれにいろんな事情を抱えて来局される所。患者様一人ひとりの様子を見極めながらみんな動いているんだよ。』と言われた時、反省すると共に、私がやりたかったのはこれだ！と思いました。患者様が求めていることをでき

るようになりたい、やるべきことが見つかり
視界が開けた瞬間でした。」

“患者様のためになることか？”
自問しながら取り組む日々

患者様からのご指摘を受けて、笑顔で居るだけでは良い接客とは言えないと反省し、患者様のご要望を伺うために、積極的にお声がけをするようになったという田中さん。「例えばお薬の待ち時間が長引きそうだとわかった時や、薬の不足があるとわかったタイミングで先にお伝えする、その場にいらっしゃらない時は電話で連絡を入れる。どうしたら患者様のご負担を減らせるかを考えて行動するようになりました。『言ってくれてありがとう！』『助かったわ！』というお言葉を頂戴する度に嬉しくなり、自身のモチベーションに繋がっています。調剤事務は薬に関われることに限りがある分、その立ち居振る舞いで患者様に貢献できたいと思っています。判断に迷った時は“これは患者様のためになることか？”と自分に問いかけています。」

結婚、出産を経て、
改めて感じる周囲への感謝

今から約3年前に結婚。出産、育休を経て、現在は仕事と育児の両立に奮闘中。育児が始まった事で、改めて周りの方への感謝が強くなった。「子どもの体調不良で仕事を抜ける時は本当に申し訳ない気持ちになりますが、仲間のサポートに助けられています。一人で抱えていっぱいいっぱいになりがちな私に『頼ってくれていいよ』と手を差し伸べてくださるみなさんに心から感謝しています。」そしてもう一人、アカカベで薬剤師として活躍する旦那様も強力な応援団だと笑顔で話す。「主人とは仕事の話もよくします。薬剤師目線のアドバイスをもらったり、あとはお互いの薬局の処方せん枚数を競ったり(笑)。たわいもない話でも、誰かに話せることで自然と癒されていると感じます。人生のパートナーであり、アカカベで共に戦う同士のような存在です。今の環境を当たり前と思わず、与えていただく仕事には期待以上の成果を出したいですし、家族にももっと優しく接したい。最終目標である“最強のオカン”を目指して頑張ります！」